

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100143		
法人名	企業組合 飯野の里		
事業所名	グループホーム飯野の里 1階		
所在地	福島県福島市飯野町字原田11番地の1		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成22年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中で、ご利用者様それぞれがのんびり、ゆったりと、そして楽しく生活できるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 地域の行事には積極的に参加し、日常的に地域と交流をしている。近隣住民から野菜や果物の差し入れも多く、日頃から気軽に事業所を訪問してくれており、地域に根指した事業所となっている。
2. 職員は研修会等で受講したことを速やかに、自分たちのケアに活かしており、職員各人が自己研鑽に努めながら職務にあたっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき実践につなげています。	代表者は地域密着型サービスの理念に基づいた事業所の運営の徹底に努めている。月例会や職員ミーティングでは理念を掘り下げて職員に話し、具体的なケアや地域生活の継続支援等で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会、各種文化団体等の行事等に積極的に参加し、日常的に交流しています。	設立時から地域住民の理解と協力が得られており、地域の行事には積極的に参加し、日常的に交流している。事業所に対しての地域住民のサポートが多く、地域に根ざした事業所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームの行事に地域の方々をご招待したりする中で、認知症についての理解を得るための説明等を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、委員の皆様から率直なご意見をいただき、業務の改善等に活かしています。	会議は定期的に行われ、委員は各分野から構成されており、事業所の状況報告や外部評価結果等を協議している。委員からの提言も多く、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の各ご担当部署と、連絡を密にし、協力関係の構築に努めています。	市の担当部署とは設立時より様々な相談を通して連携を密にし、利用者の法的相談等について常に連絡し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者をはじめ、職員一同、身体拘束のない介護に努めています。	全職員が身体拘束の弊害を認識しており、拘束のないケアの徹底に努めている。玄関は日中は施錠せず、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員が研修会に出席する等して虐待防止についての理解を深め、その防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、成年後見制度についての研修会に出席実績はありますが、事業所としての取り組みは未だしていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には十分な説明をし、ご納得をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不定期ではありますが、ご家族と電話にて会話する機会を持ち、また、ホーム玄関にご意見箱を設置する等して、ご家族のご意見をいただけるようにしています。また、それらを業務に反映させる努力をしています。	運営推進会議の委員である家族からは忌憚のない意見等があり、また、面会時には家族と話す機会をもうけ、意見の把握に努めている。出された意見は代表者を中心に全職員で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例の全体ミーティングや、ヘルパーミーティングで職員の意見・提案を聞き、運営に反映させています。	代表者は毎月の全体会議で職員の意見や要望を聴いている。また、職員は日頃から代表者や事務長に何でも話せる体制となっており、意見は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるよう職場環境・条件整備に努めています。本年度より賞与も支給開始しました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を可能な限り外部研修に出席させ、スキルアップを図る他、内部にてそれらの研修実績の報告を強化することにより、情報の共有に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会県北支部主催の管理者研修会を中心に、各種研修会等に積極的に参加し、他のグループホームとの連携、情報交換に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の段階でご本人の意向を極力お聞きし、信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の段階でご家族の意向・背景等現状を極力お聞きし、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、ご本人・ご家族にとって必要であることを優先に、ご家族との協力の元、対応させていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様で共に作業をする等、暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員・ご家族が連絡を密にし、協力し合い、ご利用者様の介護に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にきっかけを作っていただき、ご本人のお知り合いに面会に来ていただいたり、ご本人を馴染みの場所にお連れする等しています。	利用者の友人や近所の方の面会が多くあり、全職員が馴染みの関係の継続に努めている。馴染みのお店の利用についても希望により支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様が孤立することがないように、ご利用者様同士の関係を把握し、見守らせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要があれば、ご家族と連絡をとらせていただき、良好な関係を保たせていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様のご意向を把握し、それに沿うよう極力努めています。	全職員が利用者に生き甲斐のある生活を継続してもらえるよう日常的な触れ合いや会話の中から利用者の希望や意向の把握し、利用者の立場に立った支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査や、日頃の、ご家族との会話から、ご利用者様のこれまでのお暮らしの内容を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、ご利用者様の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した、より良い実現可能な介護計画づくりに努力しています。	利用者、家族の要望等を踏まえ、全職員で「ひもとぎシート」等を活用しアイデアを出し合い、介護計画を作成している。再アセスメントやモニタリングの内容等も計画に反映されているが、計画に基づく支援記録の仕方に工夫が必要である。	利用者毎の介護計画の支援内容を個別記録に記入する事が必要である。適切に記録し、モニタリング等に役立てて欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を子細にし、職員間の情報交換を密にする等し、介護計画の見直しに活かせるよう努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に即した介護が実践できるよう、柔軟に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当ホームが置かれている地域の自然、文化、人的交流等が、ご利用者様一人一人に活かせるよう、情報収集等に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホーム協力医療機関等にて、すべてのご利用者様の定期受診に努め、ご家族のご了解・ご納得をいただいています。	本人、家族が希望するかかりつけ医の受診を支援しているが、ほとんどが協力医療機関をかかりつけ医としており、毎月の定期診療には職員が付き添っているが、それ以外の受診は家族が対応している。また、月2回協力医療機関の往診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約医療機関の訪問診療や、24時間体制の連携により、適切な指示等をいただいています。来年度から訪問看護ステーションと契約予定です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、協力医療機関との緊密な連携を保ち、ご利用者様の早期退院に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される場合、早期にご家族との話し合いを持ち、協力医療機関との連携のもと、対応しています。	事業所として重度化、終末期対応指針を作成済みであるが、利用者及び家族等の同意は得ていない。また、来年度から事業所として医療連携体制について準備中である。	早い時期に同意を得られることが望ましい。事業所として対応できる体制を作り上げることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変、事故発生時について、全職員が的確、迅速に対応できるよう、内部での研修に努め、実践力を身につけてきています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練に於いて、消防署員の方からの指導を受け、利用者様の安全確保についての方法を身につけ、また、地域の町内会の方にも訓練に参加していただき、ご協力を得る体制を整えています。	年2回、総合防災訓練を実施し、内1回は消防署及び地域の消防団の指導と参加を得ている。夜間想定訓練も実施されており、避難の所要時間の測定なども行われている。災害に備えた食料等も備蓄している。	避難訓練や通報訓練を繰り返し行い、いざという時に全職員が避難誘導をできるよう訓練回数を増やすことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様それぞれの人格、誇り、プライバシーを尊重した介護に努めています。	利用者への言葉掛けや介護は、本人の尊厳を傷つけることがない様、丁寧な対応に配慮している。また、個人の記録の管理なども適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様のご意向、自己決定のための働きかけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様それぞれの生活のペースを尊重し、ご希望に沿うよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれについても、ご利用者様のご意向を尊重し、支援させていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	作業可能なご利用者様と職員が共に作業し、食事が楽しめる環境づくりに努めています。	利用者の心身の状況に応じて、食材の買出しや、食事の準備、後片付け等を職員とともにやっている。落ち着いた家庭的な雰囲気の中で職員も一緒に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様一人一人の状況に合わせて、食事量、食事提供方法、水分量等の適正化に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様それぞれの状況に合った口腔ケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様それぞれの状況を把握し、排泄の自立に向け努めています。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレの排泄を支援している。トイレ誘導で排泄が改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様それぞれの便秘の原因を理解し、その防止に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様のご意向に沿うよう、ご入浴をいただいています。	日曜日以外、毎日入浴が出来る。毎日入浴をしている利用者もいるが、平均すると週2～3回の入浴となっている。入浴を拒否する利用者もいるが、風呂掃除をお願いし、同時に入浴を済ませる等の工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休憩、夜間の睡眠ともに、ご利用者様それぞれが良眠できるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で、ご利用者様それぞれの服用薬についての正しい知識をもつようし、服薬の支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者それぞれの生活歴、嗜好品、楽しみごとを把握し、生き甲斐ややり甲斐を感じていただけるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々、ご入居者様それぞれの希望に沿って、戸外に出かけられるようにしています。また、ご本人のご意向をおききしながら、季節感を感じていただける場所や名所旧跡等へもお連れするようにしています。	日常は午後の時間帯で希望者の散歩を支援している。また、事業所の周辺には、桜の名所やUFOの里や紫陽花寺等の四季折々に楽しめる公園などがあり、利用者の希望で各地へ出掛け、気分転換や五感の刺激を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員とご家族との協議のもと、ご利用者様にお金を持っていただいています。また、買い物等の報告をその都度させていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の支援はさせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については、安全面・衛生面に配慮し、また、装飾等を施し、居心地良くお過ごしいただけるよう努めています。	共用空間は、ゆったりしたスペースが確保されており、利用者が思い思いの場所で利用者同士や職員と談笑しながら過ごしている。天井や壁面には、利用者と職員が一緒に作った折り紙や塗り絵などが飾り付けられている他、各種行事や外出時の思い出の写真が貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内にご利用者様それぞれが居やすい場所づくりに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	居室ではご利用者様のプライバシーが保てるよう努めています。また、安全面・衛生面でも安心して暮らしていただけるよう配慮しています。また、ご自宅での家具の配置等をお聞きし、極力それに合わせています。	居室は、エアコンと収納スペースの広いクローゼットが備え付けられている。その他の生活用品は、利用者の生活習慣や好みに合わせて、ベッドやイス、テレビ、フィットネス器具等が持ち込まれている。各々の個性に合った居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はご利用者様の「わかること」「できること」が明確になるよう努めています。		